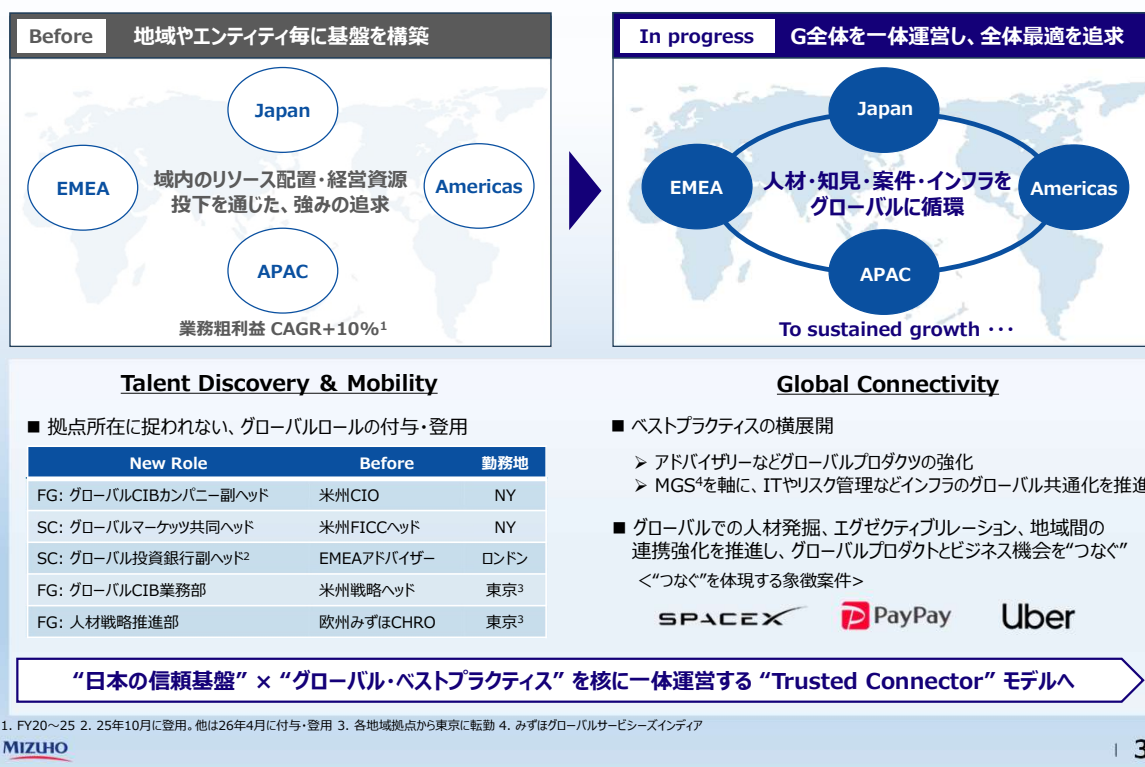


“真のグローバル化”に向けて **From Presence to Operating Capability**

副社長執行役員
特命事項担当
Suneel Bakhshi



人材・組織・仕組みはグローバルベースで着実に変化



(Suneel副社長執行役員)

スニールと申します。私から最初に申し上げたいのが、松浦が今触れた最後のトピックになりますけれども、25年前のあの事件におきまして、我々は現在の世界の分断というものを思い出します。我々が強く思っていますのは、この分断された世界の中で、日本には本当に果たせる役割があります。コネクターとして、つなぎ手として、役割が果たせると思います。

その中で、一番下に書いてありますけれども、我々は世界的に人材・組織を一体運営することを志向しております。それにあたり、Trusted Connectorモデルを、グローバル・ベストプラクティスを核に進めていきたいと思っております。

松浦、佐々木がお話したように、グローバルな金融機関はMarketsとBankingの一体運営をベストプラクティスとして、お客さまにマーケットスタンダードを超える形で、そのサービスを提供しております。ですから、日本のスタイル、つまりお客さまに対するサービスとグローバル・ベストプラクティスを組み合わせることによって、35ページの左上に書いてありますけれども、伝統的なリージョナルビジネスからの脱皮を図り、独自のものを展開できるので、それがアルファになると思っております。

私もこの役割に就いて1年ぐらいがたちますけれども、先ほど菅原、足立、猪股がお話したように、そして松浦、佐々木が言及したように、右上に書いてあるような、一体運営に向かって動いていると確信しております。

皆さまご存じだと思いますけれども、この何年もグローバルビジネスに携わってきた

者として申し上げますけれども、本当のアルファというのは、人材のマインドセットが変わったときに実現できます。つまり、〈みずほ〉がお客さま中心のベストソリューションを一体となって提供することで、初めてそういったものが発揮できると思っています。

我々にはグローバルな強みがあると思います。松浦が、トーマス・ハートネットがマーケットのヘッドということで1年前に採用されたという話をしました。そして、左下に書いてありますけれども、ジョン・ブキャナンが松浦の配下で副担当として仕事をしており、テクノロジーの強化に注力しております。

テクノロジーに対するフォーカスということで、これもやはり、先ほど話があった、グローバルケイパビリティセンターがインドのPuneにあり、私もインドに頻繁に行く機会がありますが、人材の品質が高まっていることを実感しており、アメリカのビジネスにおけるサポートを開始しております。

今後、このモデルが成長するに従って、実際、ほかの地域にも活用することができるようになると思います。そうすることによって、イノベーション、それからコストの最適化も図れると思います。それにより、経費率も改善するでしょうし、マーケットよりも上回る形で改善すると思っています。

また、ロンドンでは、今回初めて新しく、グローバルインベストメントバンキングの副責任者が採用されました。カレン・フランクはロンドンにいますけれども、クロスリージョンで仕事をしております。

それから、重要な変化という意味では、本社で、2人の非常に重要な役割を果たす人物がいます。ポール・ヒューズというニューヨークから東京に移ってきたものがGCIBでの戦略副担当を務めております。それから、欧州のHRの責任者、アムステルダムの方が今、東京に異動してきて、セバスチャンですけれども、HRの部門で勤務をしております。

このような事例はベストプラクティスを採用した結果であり、グローバルベースで協働する意思のある人材と地域の強みを活用しつつ、カルチャーを超えて、ワンチームとして一体運営し、加えて日本のカルチャーと伝統を組み合わせることが大きな強みになります。

私の役割は、トップの意思を理解しつつ人材を特定し、マーケット動向を見ながらクロスリージョンでつなげていくということになります。

既に本日ご説明させていただいた内容の繰り返しではありましたが、私のプレゼンはここまでにしたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。